

東京大学情報学環

危機のなかの東アジア共同体

実施期間：2013年10月～2014年1月

- 第1回 「授業のインストラクション」  
(10月8日) 木宮正史 (東京大学大学院情報学環・教授)
- 第2回 「東アジアに関する各自の問題意識の発表」  
(10月15日)
- 第3回 「中国から見た2013年の日中関係」  
(10月22日) 楊伯江 (中国現代国際関係院日本研究所・所長)
- 第4回 「日本から見た2013年の日中関係」  
(10月29日) 天兒慧 (早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・教授)
- 第5回 「中国の視点から見た朝鮮半島」  
(11月5日) 金景一 (北京大学朝鮮半島研究センター・副センター長)
- 第6回 「韓国の視点から見た朝鮮半島：経済協力の視点から」  
(11月12日) 梁文秀 (韓国北韓大学院大学・教授)
- 第7回 「米国の視点から見た朝鮮半島：社会文化の視点から」  
(11月19日) Charles Armstrong (コロンビア大学・教授)
- 第8回 「日韓領土問題の新たな解法模索：歴史と国際法学の視点から」  
(11月26日) 玄大松 (国民大学日本学研究所・研究教授)
- 第9回 「日韓関係の未来構想」  
(12月3日) 朴喆熙 (ソウル大学日本学研究所・教授)
- 第10回 「中国の視点から見た日韓関係」  
(12月10日) 戚保良 (中国現代国際関係院朝鮮半島研究室・主任)
- 第11回 「米国は東アジアとどのように向き合うのか？」  
(12月17日) David Straub (Associate Director of Korean Studies Program, Stanford University)
- 第12回 「アジア共同体の構想とワンアジア財団の活動」  
(1月14日) 佐藤洋治 (ワンアジア財団・理事長)
- 第13回 「各自のレポートをめぐる議論」  
(1月21日)
- 第14回 「総括」  
(1月28日)

※講義日程および内容は講師の都合等により変更になることがあります。